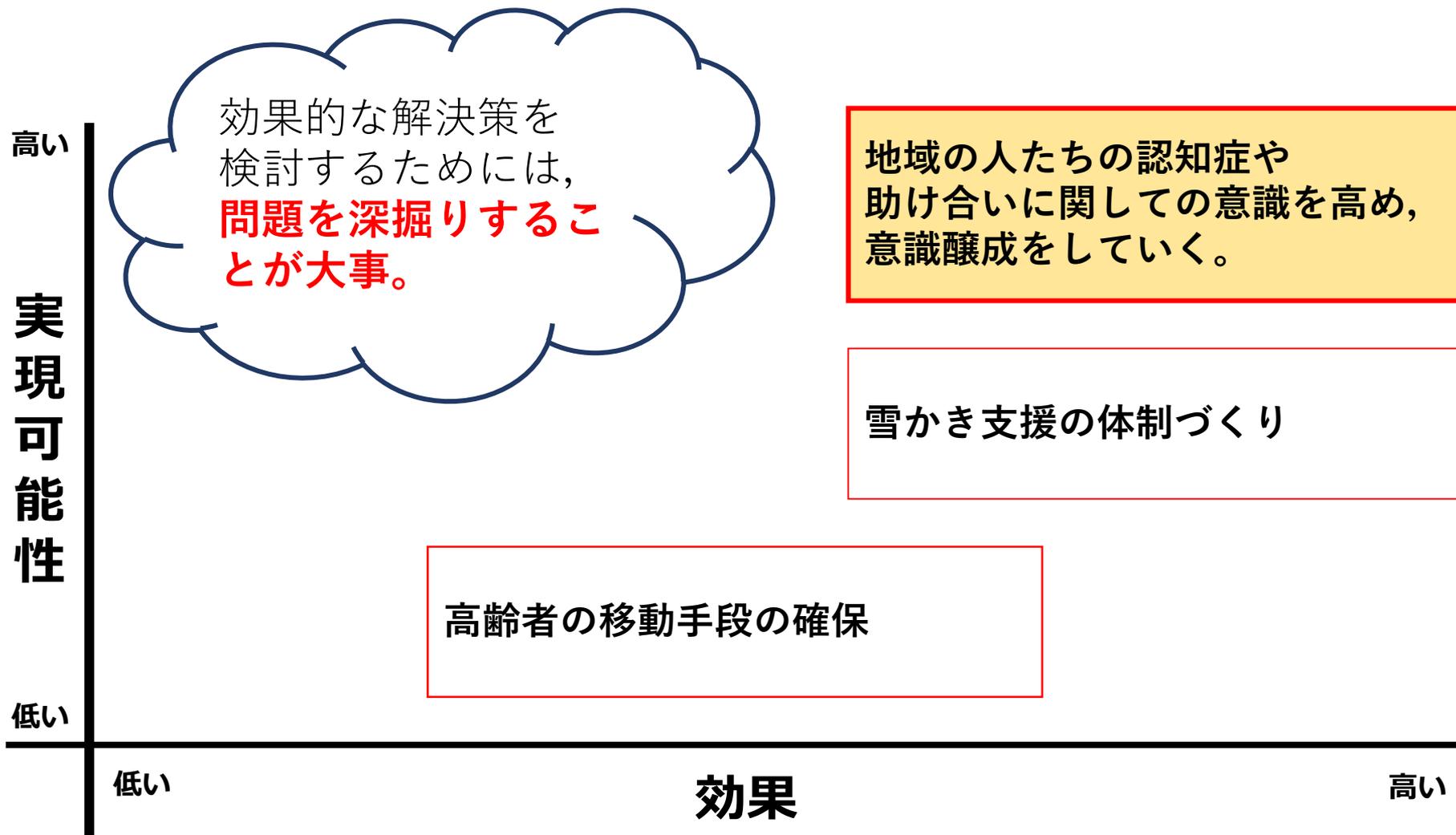


整理された課題と その対応

令和元年度第 2 回
函館市地域支え合い推進協議体

課題の優先順位



問題を深掘りした結果

助け合いの気持ちはあっても、高齢者（特に認知症の方）との考えの違いやトラブルが生じると途端に排除ムードになってしまう。

地域づくりの中核は町会であり、町会を新しい発想で活性化させることが必要ではないか。

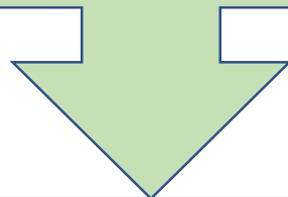
いくら助け合いの気持ちはあっても、知らない人同士で助け合おうとは思わない。**顔の見える関係が必要。**

助け合いの気持ちはあっても、実際には働く世代では、**時間に余裕がない。**

おやじ世代は、親の世代の地域での付き合い方を見ているし、親の介護の心配などもしている。
まずは**おやじ世代が地域で顔の見える関係になることが必要**ではないか。

対応 1

助け合いの気持ちはあっても、高齢者（特に認知症の方）との考えの違いやトラブルが生じると途端に排除ムードになってしまう。



地域ケア全体会議で「認知症になっても住み慣れた地域でその人らしい生活を営むために、住民、関係機関、行政の総合力による地域づくりを行う。」ことを目的に取り組み中。

参考：第1層協議体と第2層協議体の位置づけ

第1層協議体

助け合いを
広めるための
全市的な地域づくり

地域ケア全体会議

高齢者を支える
全市的な地域づくり

SC
連絡会

A圏域の
課題

B圏域の
課題

C圏域の
課題

第2層協議体

(地域課題を検討する地域ケア会議)

個別ケースを検討する地域ケア会議

対応 2

地域づくりの中核は町会であり，町会を新しい発想で活性化させることが必要ではないか。

市民部の町会活性化検討会議により検討され始めた。生活支援コーディネーターが検討委員となっているため，助け合いの視点で意見を持ち込み反映させていくことができる。

対応 3

おやじ世代は、親の世代の地域での付き合い方を見ているし、親の介護の心配などもしている。
まずはおやじ世代が地域で顔の見える関係になることが必要ではないか。

～第1層生活支援コーディネーターの動き～

おやじ世代の地域活動を探るため、
実際の活動者へインタビューを行う。

ブレストタイム

1 インタビューの内容

- ・ 地域活動を始めたきっかけ
- ・ 地域活動の仲間の増やし方
- ・ おやじ世代を地域活動へ誘い出す方法のコツ
- ・ おやじ世代の活躍の場へのアイデア

2 地域で活躍しているおやじ世代の情報

3 おやじ世代への期待（どのような場面で、おやじ世代の力が必要となるか）